



～えほんだより 5月号

【今月の絵本紹介】

子どもは、絵本の中に入りこんで一緒に体験しています。大人になってからでは絶対にできない、不思議な経験を絵本の中に入っていることができます。

0歳児・1歳児 「だーれか だーれか」

「ぶんぶんぶん だーれか だーれかいませんか」
そんなフレーズを繰り返しながら、はちが友だちを増やしていきます。これからの季節に見られそうな虫がでてきます。子どもは見つけてもらうのが大好き。「だーれかだーれかいませんか」と探してあげると楽しい遊びが始まりそう。



2歳児 「かいけつ」

ゴールを目指して走ったり、坂を駆け下りたり走ったり、もちろんジャンプも上手になる2歳ごろの子ども達にはピッタリのお話です。絵本を何度も読んだ後に、絵本のフレーズを使いながらからだを動かすのも楽しそう。動物たちの表情が楽しい絵本です。

3歳児 「わたしのむしとり」

この季節になると、子ども達の虫取りがはじまります。一人前に(?)虫取り網をつかって虫取りに挑戦するころ。大きな道具に振り回されるけれど、こんな経験で使い方を知ったり、虫取りの楽しさを知ったりするのかしら…ね。



4歳児 「どろんこ どろっちょ」

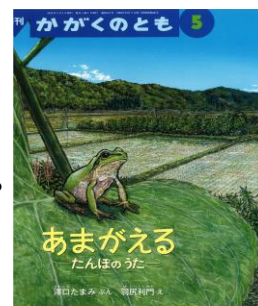
はるくんが泥だんごづくりに苦戦しています。どうやってもうまくできません。すると泥の中から「どろっちょ」が現れます。「かわきすぎ」「みずがおおいよ」って教えてくれて、その通りに作ったら上手にできました。もう1つ作ったら…あれあれ、どろっちょがいなくなっていました。泥だんご作りは、子ども達にさせたいあそびの1つ。公園の土では難しいのだけれど、是非、親子で挑戦してほしいです。



5歳児 かがくのとも

「あまがえるーたんぽのうたー」

あまがえるの1年を描いたお話です。最近おたまじゃくしも見られなくなりました。きっと最近の子どもたちはかえるは「川」で見かけるようです。でも、かえるといえばたんぽなんですよ。たんぽのある地域では、梅雨から秋にかけてかえるの合唱がきこえます。この本で知りました。(私だけ?)あまがえるといえば緑色だと思っていましたが、まわりにあわせて色が変わるんですって…



5歳児 「ひでのひみつ」

なんだか昔話のようなお話ですが、田畑のある地域の日常の出来事。家の仕事を当たり前の手伝っている子、広い畑で転げまわりながら遊ぶ子。そんな日常の中に、親ひばりと子ひばりの親子の姿や、親やぎと子やぎの様子などがそっと描かれています。地方のことは「方言」がたくさん出てきます。お子さんへの読み聞かせ前にぜひ「予読」をして、方言に慣れておくとも面白さ倍増です。



絵本って…

絵本にはよく「読み聞かせなら〇歳から、自分で読むなら△歳から」と示されています。そのため、大きくなったら赤ちゃん絵本は卒業…と考えがちですが、赤ちゃん向けの絵本は、こんどは字が読めるようになったら自分で読むにはちょうどよい文字数です。単純な文章なので、文字を拾ってことばの意味を読み取ることもしやすいですね。

赤ちゃん当時にその絵本を読んであげた時のお子さんの姿など話してあげるのもうれしい時間になるはずですよ。



～プラスワンのご紹介～

「ちいさなねこ」

ちいさなねこにとっては、全てが大きな世界。家の中にいたこねこが大冒険。家の外は、車も犬も大きくて、怖くて驚くことだらけでした。大きな犬にはえられて木の上に逃げていったこねこ。こねこの声を聞きつけたお母さんねこが助けにきてくれました。

小さい子向けの絵本にもなりますが、ねこの生体は描かれている絵本でもあり、そして、最後は「やっぱりお母さんの近くが一番安心できるね」という優しい気持ちになる絵本です。

お母さんねこにくわえられて連れていかれるときのお母さんの顔にクッとしてします。

安心感を得た時の呆然とした表情のようです。



～絵本だより 発行について～

絵本だよりにはおおまかなあらすじや、どんな遊びができそうかな…などを載せていきます。今月号はどんなお話をお知らせすることで、絵本が手元になくても、お子さんとの話題作りに役立てていただければと考えています。

分園では、食後や夕方の自由遊びの時間など、図書室で過ごす子がふえてきました。図書室の一角は看護師さんの場所でもあるのですが、看護師さんにもたくさん絵本を読んでもらっています。同じ絵本でも、読み手によってその面白さが違うようです。絵本の楽しみ方は奥が深いようです。乳児棟の子ども達も、活動の合間に先生に読んでもらう絵本が大好きな様です。

保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。希望の絵本があればリクエストを。みんなで「あそびの杜 図書館」をつくりましょう。

